

真木

第 202 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

令和四年度通常総会開催

令和四年度通常総会が五月十五日（日）午後一時より「ホテルポトプラザちば」二階「ルビーの間」にて開催された。出席者三十五名、委任状二〇八名、合計二四三名（会員数三七一名）で加藤峰子事務局長の総会成立宣言により開会された。



議長・能村会長

増成栗人副会長の開会の辞に続き、能村研三会長より「コロナ感染症蔓延のため、諸行事が対面でなく行われる状況が続きました。今年やつと通常総会の席上で、第七回千葉県俳句大賞および第三十六回協会賞の贈賞式が開催されることになりました。誠に喜ばしい限りです。」との挨拶があった。

恒例により議長を会長が務め議事に入り、令和三年度事業報告が加藤峰子事務局長より、同収入支出決算報告が中村世都事務局会計担当より行われた。続いて会計監査報告が飯田晴監事よりあり、異議なしで承認された。

次に、加藤事務局長から令和四年度事業計画案、中村会計担当より令和四年度収入支出予算が提示され承認された。議事終了に伴い総会は、北川昭久副会長の閉会の辞により終了した。

(三浦侃記)



会場風景

目次

令和四年度通常総会開催	1
新緑交流会・千葉県俳句大賞、協会賞贈賞式	2
新緑交流俳句会	4
千葉県俳壇ニュース	6
ひろば、結社賞	7
会員著書紹介、新入会員一句、基金御礼、受贈誌より	8
事務局日誌	9
第六十四回千葉県俳句大会のご案内	9

新緑交流会・第七回 千葉県俳句大賞・第三十六回 協会賞 贈賞式

千葉県俳句大賞贈賞式

俳句大会に続いて、第七回千葉県俳句大賞の贈賞式が行われた。当初、二月十三日の新春交流会の席上で行う予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、延期されていた。今回の受賞者は句集『雛篋』の福井隆子氏、句集『金色』の抜井諒一氏の二人。

式は秋尾敏副会長の司会で進められ、増成栗人副会長から選考経過が説明された。能村会長から正賞の楯と副賞が贈られた。受賞者のスピーチに続き、ふらんす堂の山岡喜美子氏、『俳句』編集長の石川一郎氏からも祝辞が贈られた。



第7回千葉県俳句大賞

前列左から 福井氏、能村会長、抜井氏
後列左から 増成副会長、山岡氏、石川氏、
北川副会長

協会賞贈賞式

続いて、第36回協会賞の贈賞式が行われた。協会賞に「薬伸びやかに」の山岸明子氏、次席「探梅行」の有田川あき氏、佳作1に「神の留守」浪岡玄氏（当日は欠席）、佳作2に「村の四季」の布施和子氏が選ばれた。引き続き秋尾敏副会長の司会で進行され、染谷卓理事から選考経過の説明があった。能村会長から賞状、賞品が授与され、協会賞の山岸氏が代表して受賞の言葉を述べた。なお、全員の「受賞者のことば」は今号の誌面に掲載している。



第36回協会賞

左から有田川氏、能村会長、山岸氏、布施氏

第三十六回協会賞

受賞者のことば

協会賞 山岸 明子

この度は千葉県俳句作家協会の第36回協会賞を賜りありがとうございます。審査員の先生方、協会の関係者の方々に心よりお礼申しあげます。私が俳句を始めたのは定年退職後ですが、俳句についてほとんど何も知らないままカルチャー教室に通い出しました。そして「鴻」の増成栗人先生に出会い、丁寧な指導を受けて拙い句を添削していただき、時に選評に励まされたりしながら、楽しく学ばせていただいております。また諸先輩や句友の皆様からも沢山の刺激を与えていただきました。

俳句を詠むことは私にとって全く新しい営みでしたが、日本の季節の美しさや日本語の素晴らしさに改めて感じ入り、日々の生活でも五感を働かせ、以前は感じなかったことに気づくようになってきました。

高齢者（と言われる年代）になってから俳句の道のみつけたことを嬉しく思っていました。こ

の度このような賞まで頂き、ゆく道が更に確かな道になったと感じております。俳句という短い詩型だからこそ表現できたり、読む人に感銘を与えるような素晴らしい俳句に出会いますが、そのような俳句を目指して、これからもずっとこの道を歩んでいきたいと思えます。

次席 有田川 あき

この度は、身に余る賞を頂戴致しまして、有難うございました。選者の皆様をはじめ、運営に当たって下さいました方々に、心より感謝申し上げます。

私は、二〇二〇年一月に、入会させて頂きました。私が、コロナ禍により、全ての行事が中止となり、今回の表彰式が、初めての参加となりました。不安ながらも、皆様とお会い出来ました事、大変嬉しく思っております。

四年ほど前までは、鷹羽狩行先生の「狩」で学んでいましたが、終刊後は結社を離れ、現在は地域の皆様と、月一度の句会を楽しんでいます。

これまで、子育ての時期や、体調を崩した時など、いろいろな場面で俳句に、助けられてきました。俳句と向き合っている時の充実感、時間を忘れて仲間と交わす俳句談義、旅の楽しみ方も、有意義に感じられます。

今後ますます、遠出も適わなくなっていく中、

身近なものに心を寄せ、俳句と戯れて生きられる事を、幸せに思えます。

これからも、いろいろ お世話になる事と思えますが、何時までも、お仲間に入れて頂けますよう、そして、ご指導下さいますよう、お願い申し上げます。

有難うございました。

佳作1 浪岡 玄

この度は、過分なる賞を賜り誠にありがとうございます。ございました。

俳句を始めて八年ほどになりますが、季語の沃野、極端に短い形式から生まれる余白が逆説的に孕む豊穡に引かれて、一向に飽きることがありません。

師と俳友達に非常に恵まれていることも、継続の力となっております。

もし俳句を知らなかったら、このコロナ禍の日々がどんなに耐えがたかったことか、想像するのも恐ろしいぐらいです。俳句は、自然、動植物とよく親和します。コロナ禍と無関係の自然の美しさ、営みが、日々逼塞していく心を、平常にもどすのに随分役に立ってくれたように思います。

俳句には、正解もゴールもありません。何か物事の本質のようなものに触れたような一瞬の錯覚。次の瞬間には正気に戻り、また逃げ水のようなもの

のを追いかける。この繰り返しがこの先もずっと続きそうです。

最後に、私のつたない俳句を推薦してください。皆様に、心からの感謝を申し上げます。

佳作2 布施 和子

この度は、思いがけず第36回千葉県俳句作家協会賞の佳作2をいただき誠にありがとうございます。このお知らせをいただきました時に、「えっ私……いいのかしら……」と、驚きと身の縮む思いでした。

俳句との出会いはテレビ番組です。呆け防止のために友達五人で始め、森の座の石橋みちこ先生から歳時記を買うことから教えていただき、楽しく続けてきました。しかし、段々難しくなり、もうやめたいやめてどうすると迷う私に、先生は「続けることよ」と、励ましご指導してくださいました。また、森の座の句会の方々との交流も支えとなりました。また、心から感謝お礼申し上げます。

今まで、触れた季語はほんの少しですが、一つでも多くの季語に出合えるように、句会吟行に参加したいと思えます。そして、みちこ先生の「感動する心を培い、まずは平易な言葉で素直な表現を心掛けること」を目標に、俳句に向き合っていくしたいと思います。

【新緑交流俳句会】

最後に俳句会が開催された。出句は事前に当季雑詠二句を募り、計二三六句が集まった。選は一般参加者による選が三句、理事が五句とし、披講を加藤峰子事務局長、染谷卓理事、村上喜代子理事が担当した。新型コロナウイルス感染症の影響か欠席の投句者も多かったが、協会としては久々の集会による句会であり、会場も句会再開を祝う空気に満たされた。増成副会長、北川副会長、秋尾副会長、能村会長からの講評ののち、高橋健文副理事長から成績が発表された。

コロナ禍以前に行っていた懇親会の開催は見送られた。これをステップに、来年は懇親会も含めた新緑交流会の開催を目指したい。

俳句会作品集

能村研三会長特選

くちびるに微かな水位草蜉蟻
清水 伶

増成栗人副会長特選

てのひらは無尽の器麦の秋
黒澤 雅代

秋尾敏副会長特選

恋は肉愛は骨まで桜咲く
叶矢龍一郎

北川昭久副会長特選

風生の空へ雲雀の鳴きにゆく
北村 操

石井紀美子理事長特選

雨蛙水平線をふくらます
徳吉洋二郎

高橋健文副理事長

てのひらは無尽の器麦の秋
黒澤 雅代

加藤峰子事務局長

吹くたびに葉の匂ふ紙風船
弦巻喜久子

互選結果

入賞者と代表作品

(二句合計点数、○数字は順位、一句の掲載)

① 薔薇園の薔薇次々と名乗りをり 8点

② 羽衣のやうな春風生まれけり 7点
稗田 寿明

③ 芽柳の雨粒ひとつづつみどり 7点
川合 憲子

④ 葉桜やキリン首より歩き出す 6点
富川 明子

⑤ 雨蛙水平線をふくらます 6点
磯野 広子

⑥ 花の種文字書くやうに蒔きにけり 6点
能村 研三

⑦ 昭和の日座つて居れば眠くなる 6点
東 國人

⑧ てのひらは無尽の器麦の秋 5点
黒澤 雅代

⑨ 向う岸が近くに見えて山桜 5点
蓮井 崇男

⑩ 影といふ影の消されて朝ざくら 5点
高橋 宗史

⑪ 名を決めて産声を待つ星涼し 5点
奥村 利夫

⑫ ジグザグに来て蠅考へる考へる 5点
祐 森司

⑬ 老木の今渾身の芽吹きかな 5点
佐々木リサ

⑭ みえぬ風見せて流るるしやぼん玉 5点
鳥飼 成雄

⑮ ごはんつぶ甘きまで囁み朝桜 5点
小林 愛子

⑯ 夜は星と語り合ひをる半仙戯 5点
大久保文夫

⑰ アクセルを踏めば逃水加速する 4点
藤岡 貞夫

⑱ 天ぶらに透ける野の色露の臺 4点
歌代 美通

⑳ 白つめ草座せばひろがる遠い過去 4点
谷本 元子

㉑ 噴水の水が遊んでくれてをり 4点
抜井 諒一

採点風景



一位入賞
稗田寿明氏



以下得点省略(各一句のみ掲載)

噴き出され余生戸惑うシャボン玉	春禽や青空映すにはたづみ	連に躍る光や蘆の角	春の夜のチワワ賢者の相見せり	火の国を黒焦げにして野焼終ゆ	咲き満ちる桜に他意のなかりけり	蛇穴を出づれば怖ひことばかり	梅雨晴や路上に光る瓶の蓋	八十八夜郷愁はとつぜんに	わが火葬してみたきほど曼珠沙華	木蓮の散る池にあるリズムかな	水暮れて螢の闇となりけり	谷越しに湯屋灯りたる臚かな	チューリップ一鉢ごとに児童の名	九十九里浜を眼下の花御堂	健忘も難聴もまま目借どき	ミモザ咲く国際女性日の朝	草餅やほどよき頃の折衷案	唐棧に一筋の紺夏めきぬ	春泥や越境の靴思ふべし	田を植ゑて若き日語る唄かな	一仏浄土散り際の花うつくしき	江戸散歩ぶらり谷中のきな粉餅	房総を育みきたる春の潮	青き踏む靴の浮力や岬日和	夏初め影から老いる姿かな	桜隠しお礼の絵馬は筆太に	遅ざくら石塀にあるのぞき穴	鳥曇名のなき千の句を選ぶ	立ち漕ぎの自転車群夏来る	菊地 喜己	藤井 稜雨	松尾 涼	須崎 輝男	高橋 富久江	湯浅 康右	奥 保夫	菅谷 貞夫	名取美枝子	三枝 青雲	金子日出子	能美昌二郎	原 瞳子	木村秋草子	金子まもる	多胡たかし	服部 直道	斉藤 信一	栗坪 和子	佐藤 映二	鎌田 光恵	増成 栗人	岩本 功志	伊藤 隆	佐久間由子	石山 幸月	田村 雅子	望月 百代	村上喜代子	茶谷 静子	昭和から歩きつづける蟻の列	無器用に二人を育て柏餅	引き鶴や戦地を避けて遠廻り	新しき蟻の道置く小宇宙	水底に届く日ざしや水草生ふ	首蓆に坐れば消えてしまふ川	房総をみなみ南へ春惜しむ	シンブルといふ贅沢や栄螺焼く	木漏れ日の斑を漁る親子雉子	色褪せし作務衣すなはち花衣	敗戦忌おが屑くさき棒アイス	誰よりも生きて余生や春惜しむ	少年の強き雄心辛夷咲く	若竹の一徹天を突くほどに	遠出してひと夜の宿や花林檎	山吹や天上の青近づけて	昨日と同じ顔を洗へり花は葉に	新築の槌音高くうららかに	長閑けしや往きも復りも空電車	野遊びの足裏に土の湿りかな	山葵田の水きらきらと信濃富士	翻訳の出来ぬ鳥語や春惜しむ	生まれたてらしく流るる春の水	初蝶のまだ濡れてゐる黄色かな	散り際を人には見せず夕牡丹	水鏡かき乱されて花の夕	退屈の極みの雲と葱坊主	いずこより避難したのか花吹雪	重さ引き美しき間や落椿	銚先にくねる岩名や父の鼻	四阿の宿する者の芽木明かり	細根 栗	森 孝子	浜辺 功	藤田 考成	染谷 卓	飯田 晴	本池美佐子	椎名 鳳一	藤野 武彦	小林 子雀	奥井 あき	須藤 義紀	柴田 歌子	相川 健	齊藤 哲子	平岡 育也	福井 隆子	松本よし彦	村田 満枝	布施 和子	石崎 和夫	石田きよし	高橋 健文	有田川あき	加藤 峰子	前北かおる	中村 世都	小野 功	梓 孝江	寺田 勝子	小坂清一郎	また来ると固い約束茄子の花	うららかや長き涎の牧の牛	残花なら静かに散つてゆく自由	石と木と蔓の教会夏つばめ	暖味に人と別れて春の月	精一杯伸びて噴水どつと落つ	花冷や幼に軍歌刷り込まれ	鯉幟一戸の為の峡の径	新緑を貪る腰に万歩計	寝転ぶ頬に草の名解ける初夏	雪割草信濃にひそと久女句碑	靴底の片減り著き麦の秋	産毛剃りし少年眉夏来たる	そら豆やはじけ初めたるひとりつ子	校門の閉ざされてをり新樹光	梅檀の花くもらせて小糠雨	大向日葵地上に国境なる遺物	海光のとどく丘陵花菜風	緑蔭を出づる吾が影瑞々し	命がけの恋などなくて牡丹散る	土寄せの句を溢す菊の苗	雀色どき連翹の咲き誇る	さぞ落花能登の城趾の千本よ	わくわくと放送部員柿若葉	亡国の民のごとくに蛸刺離散	帰りなん甲斐の古刹や涅槃西風	かぎろえて膨らんでゆく一輛車	民謡に哀も悲もあり冷し酒	アトリエは高架下です若葉風	炎天やこの先知らぬ道をゆく	羽矢 真人	金井 照子	鈴木真沙枝	滝口 滋子	林 由貴子	恒川 絢子	袴田 菊子	石橋みちこ	平山 武彦	山田たかし	北川 昭久	細川 洋子	吉田 叔子	豊島 京子	長谷川広子	木村 美翠	荒木 甫	川崎 直子	澤田 英紀	清水佑実子	澤田 寿一	山岸 明子	加世堂魯幸	平間 裕子	三枝かずを	齊藤 智	長井 寛	山内 洋光	秋本 紀子	藤井 元基
-----------------	--------------	-----------	----------------	----------------	-----------------	----------------	--------------	--------------	-----------------	----------------	--------------	---------------	-----------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	---------------	----------------	----------------	-------------	--------------	--------------	--------------	---------------	--------------	--------------	-------	-------	------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------------	-------------	---------------	-------------	---------------	---------------	--------------	----------------	---------------	---------------	---------------	----------------	-------------	--------------	---------------	-------------	----------------	--------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	-------------	-------------	----------------	-------------	--------------	---------------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	---------------	--------------	----------------	--------------	-------------	---------------	--------------	------------	------------	---------------	---------------	-------------	--------------	------------------	---------------	--------------	---------------	-------------	--------------	----------------	-------------	-------------	---------------	--------------	---------------	----------------	----------------	--------------	---------------	---------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------

(松本よし彦記)

千葉県俳壇二ニュース

俳人協会千葉県支部俳句大会

四月三十日、俳人協会千葉県支部令和四年第三十三回俳句大会が、ホテルポートプラザちばにて開催された。新型コロナウイルス感染症の影響で過去二年は応募句のみの実施だったため、三年ぶりの総会、俳句大会となった。応募作品は七六八句、松尾隆信氏が『上田五千石を語る』の題で講演した。なお、入賞句は以下の通り。

第一位・俳人協会千葉県支部長賞

木も石も叩けば楽器空也の忌

松澤 美鈴

第二位・若潮賞

雪しんしん藍の匂ひの小巾刺し

原 瞳子

第三位・菜の花賞

台本に無き白息と思ひけり

原 瞳子

優秀賞

花野へは風になりたき時にゆく

茶谷 静子

金魚田に稚魚の湧き立つ日照雨かな

奥井 あき

大仏の耳朶に囁く春の蝶

樋口 文巴

秀逸賞

あたたかや鉛筆書きの母の文

木嶋 純子

骨董のひとつは店主冬うらら

鶴見 秀昭

万華鏡くるくる山の眠るころ

増成 栗人

手袋を脱いで子と手を繋ぎけり

中村 世都

豊の秋健やかに減る米と味噌

飛田小馬々
(前北かおる報)

千葉県現代俳句協会 令和四年度俳句大会

コロナ禍のため俳句大会中止、事前投句の部のみ。入賞者作品は以下の通り。

千葉県知事賞

もう誰の墓でもなくて銀木屋

なかもと淑子

千葉県現代俳句協会賞

案山子の言葉判る村長当選す

國分 三徳

千葉市長賞

たましいは火色とおもう三島の忌

田沼美智子

千葉県教育長賞

桜満開ところどころが飢えている

石井紀美子

毎日新聞社賞

野火叩く農継ぎし子も継がぬ子も

高橋富久江

千葉日報社賞

老いるにも器用不器用花菜漬

加藤 法子

朝日新聞社千葉総局賞

大寒や生あるものはすぐ乾く

高橋 健文

優秀賞

八月のさみしき遊び缶を蹴る

徳吉洋二郎

日向ぼこやがて煙となるもよし

加藤 法子

COVID-19神獣鏡が目覚ます

並木 邑人

冬りんご感受性は転がらない

白木 暢子

今宵だけ溶かさずにおく雪女

森本 香子

セーターを去年のいのちごと纏う

藤田 富江

(「現代俳句千葉」一四五号より)

柏市俳句連盟 本土寺吟行会

柏市俳句連盟は六月三日(金) 松戸市の本土寺(別名あじさい寺)において五十三名の参加を得て吟行会を開催した。

上位入賞者作品(互選三句合点代表句)

一位 睡蓮の純白といふ閑けさよ 豊島 京子

二位 側室の墓へ影濃き茂りかな 金井 照子

三位 木道のくの字くの字や花菖蒲 石田きよし

四位 菖蒲田に染まる遊子となりけり 鎌田 光恵

五位 菖蒲園抱き合ふやうにすれ違ふ 田頭 玲子

六位 彫浅き句碑の草書や額の花 鳥飼 成雄

七位 ありつたけの背伸びの途中今年竹 奥井 あき

八位 緑さす厠の屋根の明り取り 弦巻喜久子

九位 迷ひ捨て睡蓮白を極めたり 茶谷 静子

十位 側室の墓天蓋に青楓 吉沢美佐枝

(柏市俳句連盟 茶谷静子報)

村上喜代子氏句碑建立除幕式

「いには」主宰村上喜代子氏の句碑が野田市の櫻木神社に建立され、四月五日除幕式が行われた。慶祝。

今年この桜と縁結びけり

喜代子

(「いには」六月号より)

「ペガサス」創刊五周年

羽村美和子代表の「ペガサス」が、創刊五周年を迎えた。慶祝。「五周年記念競詠 開」より代表の作品を紹介する。

神話の扉開きそう春の山彦

羽村美和子

(「ペガサス」第十三号より)

結社賞

令和四年度「鴻」結社賞

「鴻」賞 北村操

「鴻」新人賞 北城美佐

「鴻」底紅賞 坂入喜代枝

「鴻」特別奨励賞 山岸明子

(「鴻」四月号より)

第二回遊牧賞

遊牧賞 「梅ひらく」石橋翠

濡れている空が一枚梅ひらく

遊牧賞 「母の私記」伊藤幸

三オクターブ歩いてきたね白芙蓉

遊牧賞 「銀河系に」大池美木

春風や偏愛の亀持ち歩く

(「遊牧」一三八号より)

第二十回獺祭同人俳句大賞

大賞 手の指の先までソーラン節踊る

准賞 茶の花や村の要の丸ポスト

秀逸 碧眼のいなせな法被松手入れ

秀逸 狛犬の黙をつづけし神の留守

秀逸 年の瀬や喜寿と言う名の一里塚

秀逸 四代を生きて宇宙へ夢はじめ

(「獺祭」五月号より)

美木

林わか

渡邊和江

中山幸子

甲斐梶朗

山崎泰右

岡望

令和四年第四十九回響焰賞

響焰賞 「ほろほろ」秋山ひろ子

はるばると桜の下のお弁当

佳作一席 「遠雷」石谷かずよ

寄り添えば一羽のごとし春の雪

佳作二席 「クレパス十色」小林マリ子

風になりたく秋桜好きな花

佳作三席 「息災か」北尾節子

風神雷神夏シャツゆれている

(「響焰」六月号より)

第四回中山純子記念俳句賞

正賞 「牛角力」豊田高子

晴れ渡る越後三山雁の棹

佳作 「お四国の路」村上和義

発心の一番札所梅三分

特別賞 「よろずよ橋」高橋ひろ

ケンケンパッしてぶらんこの順を待つ ひろ

(「万象」六月号より)

ひろ子

かずよ

マリ子

節子

高子

和義

ひろば

県内吟行地紹介

房総風土記の丘

房総風土記の丘は印旛郡栄町の印旛沼を見渡す丘にあります。体験型博物館房総のむらに隣接しています。

風土記の丘には日本で最大規模の方墳、岩屋古墳をはじめ七十基余りの古墳が保存されています。古墳群は雑木林の中にあり、その中の小径は四季折々の姿を見せ、まるで歳時記の小径です。初音の頃、雑木林の芽吹きが始まります。広場の河津桜、辛夷の花が咲き、桜はソメイヨシノからサトザクラなど十種類以上あります。林を突き抜ける道路の並木道

には松桜が睦合うように咲きます。移築された江戸時代の茅葺古民家御子神住宅、平野家住宅が当時の暮らしを見せてくれます。金蘭、銀蘭など山野草が見られます。林が新緑を迎えると印旛沼周辺の植田が樹間に透けて見えます。墳丘には自生の山百合の花が咲きます。林が青葉になると大木のユリの木の花がチューリップの様な花をつけ、林は大緑陰にやがて蟬の天下となり、木漏れ日に狐の刺刀が供花のように群がって咲きます。落葉樹が葉を落とすと、青空が広がり野鳥が観察できます。

資料館は現在改装中で令和五年開館予定です。JR安食・成田駅からバスの便があります。(千葉県俳句作家協会理事 清水佑実子)

千葉県俳句作家協会

運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口座

郵便振替 〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えて頂きます。

会員著書紹介

句集『草蜉蝣』増成栗人著

著者は、「鴻」主宰で、当協会副会長を務める。本書は、第三句集『遍歴』以降、七年間の作品を収録している。吟行による俳句が中心となっており、一期一会のその土地への親しみ、讃歌、歴史への回顧を詠う。米寿にして青春性を追求してゆきたいと言う著者の第四句集。

草蜉蝣九鬼水軍の島にかな

宇治十帖二夕夜続きの天の川

振り向けば椿の落ちただけのこと

お神楽のたうたうたらりたり冬

(令和四年四月発行・ふらんす堂)

新入会員一句

遙かなる母郷思ほゆ夏霞

八島 岳洋

新聞をかざりと聞き雪来るか

福井 隆子

魂を置き忘れてる羽抜鶏

菅ノ谷文字

基金御礼 (令和四年四月一日以降)

井原 美鳥

寺田 勝子

広海あぐり

多胡たかし

安部由美子

永妻 和子

秋元大吉郎

柴崎 英子

細川 洋子

弦巻喜久子

楠原 幹子

白鳥 秀幸

森 孝子 岡 真紗子 浜辺 功

山岸 明子 小澤 冗 能村 研三

石井紀美子 田所 節子 染谷 卓

加藤 峰子 高橋 健文 高橋 宗史

佐瀬 忠義 谷口 摩耶 荒木 甫

小坂 照子 佐々木 茂 川合 憲子

杉山真佐子 井上けい子 関谷ひろ子

袴田 菊子 田中恵美子 及川 力哉

有田川あき 福井 隆子

(令和四年六月二五日現在・七四口 一四万八千円)

受贈誌より

あびこ(三六〇号)

寒林を蕩かし沈む落暉かな

染谷 卓

いには(六月号)

神鈴に呼び出す花神清明節

村上喜代子

沖(六月号)

日本間に椅子ある暮し花明り

能村 研三

音信(六月号)

語り継ぐ決戦畑麦青む

白鳥紅星子

響焰(六月号)

昨日きょう雨の気まぐれ残花かな

米田 規子

草の実(五月号)

去りがたき有為の奥山夕桜

逸見 真三

鴻(六月号)

一仏浄土ちりぎはの花うつくしき 増成 栗人

好日(六月号) 永き日の句点のごとく我のあり 高橋 健文

鳴(六月号) 吾になき色を探しに初桜 加藤 峰子

軸(六月号) ゴキブリが家庭を破壊して星座 秋尾 敏

瀬祭(六月号) ばら園の薔薇ゆるぎなき妍きそふ 本田 攝子

夏日(四月号) 河原石小さく丸ろしよ竜天に 望月 百代

野火(六月号) 海風や百をめてたく春ショール 菅野 孝夫

初蝶(六月号) 電子音声に従つてゐる四月馬鹿 中山 和子

万象(六月号) 若緑山門小さき尼の寺 江見 悦子

ベガサス(十三号) 月影の水柱がうたう狂詩曲 羽村美和子

百鳥(六月号) 春愁を絶つべく書架の一書抜く 大串 章

遊牧(一三九号) 桜薬ふる眼目も復活も 清水 伶

ろんど(六月号) 穀雨かな少年にうつすらとヒゲ すぎき巴里

事務局日誌

◆第二回理事会

日時 令和4年6月18日(土)

会場 ホテルプラザ菜の花 4階 槇1

議事 1 令和4年度第64回千葉県俳句大会について

2 令和4年度秋季吟行会について

3 令和4年度新緑交流俳句会結果について

4 第36回協会賞贈賞式の結果と

第37回協会賞の募集について

5 第7回千葉県俳句大賞贈賞式の結果と

第8回千葉県俳句大賞募集について

6 令和3年度新春交流俳句会の結果について

7 日本に伝わる伝統文化特別展

8 新春交流俳句会・新緑交流俳句会

参加者への結果について

9 会報「真木」二〇二号について

10 その他 事務局報告

会員異動

新会員

八島 岳洋(松戸市)、福井 隆子(八千代市)、

菅ノ谷文子(野田市)

謹 訃

福本 幸子、昼間たつお、松戸 圭、八川 信也

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

★年会費納入のお願い

年会費(三千元)は前納です。協会の円滑な運営のため、まだ納入されていない方はお早めの納入をお願い致します。年会費送付先 千葉県俳句作家協会 郵便振替口座 〇〇一五〇一六一三五二三四四

★広告募集のお知らせ

「真木」に掲載の広告を募集します。お申込みお問合せは左記へお願い致します。〒二七六―〇〇四二 八千代市ゆりのき台三一四 エルプレシア二一〇一 千葉県俳句作家協会・広報部前北かおる 電話 〇九〇―四三六三―三五〇一

編集後記

今号にて報告しました通り、総会、贈賞式、新緑交流俳句会を開催することができました。秋には、秋季吟行会、千葉県俳句大会を行う予定です。会員の皆様との再会を楽しみにしております。

(前北かおる)

第64回千葉県俳句大会のご案内

募集作品

一般の部

雑詠 2句1組(投句作品は、自作で未発表のものに限ります。投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します)

応募資格

千葉県在住の方、及び、千葉県内を俳句の活動拠点とされている方

締切

令和4年7月16日(土)(当日消印有効)

出句料

一組 1,000円 投稿に添付(なるべく定額小為替でお願いします)

送付先

〒270-2252 松戸市千駄堀968-5 森 祐司 方 千葉県俳句大会・一般の部事務局(電話047-344-4789)

記念講演

秋尾 敏(『軸』主宰、現代俳句協会副会長、千葉県俳句作家協会副会長)

募集作品

ジュニアの部

雑詠 1句(投句作品は、自作で未発表のものに限ります。)

応募資格

千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒

締切

令和4年7月30日(土)(当日消印有効)

出句料

無料

送付先

〒278-0043 野田市清水527-10 高橋 宗史 方 千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局(電話04-7125-3382)

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一
D-10005
電話 & FAX 0477-4877-7227

心を満たす俳句

鴻^{koh}

「鴻」俳句会



主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 0477-3631-4508
FAX 0477-3661-5110

◆誌代/年間 二二,000円

月刊俳誌 鷗^(しぎ)

鳴俳句会

代表 加藤 峰子
創刊 田中 午次郎
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方
電話・FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す
月刊 好日

名誉主宰 長峰竹芳
主宰 高橋健文

誌代 一年 二二,000円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉一ノ七八
好日俳句会
電話 0477-7131-6495
振替 002501141278

月刊俳誌 沖^(おき)

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/17,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊50周年 軸

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 0477-2182-4441
郵振替 00100141189074
あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ いには

ININWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索:いには俳句会

現代俳句同人誌 遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七一-二二三〇七
電話 0477-3361-081
FAX 0477-3257-7338
遊牧俳句会